

会 議 議 事 録

1 会議名	令和7年度 第3回社会教育委員会、公民館運営審議会
2 開催日時	令和8年2月12日（木）午後3時～午後5時15分
3 開催場所	長岡市中央公民館 大ホール
4 出席者	<p><社会教育委員兼公民館運営審議会委員></p> <p>野田委員、前田委員、小方委員、松井委員、今井委員、藤田委員、黒崎委員、西片委員、八子委員、富永委員、岡田委員、長部委員、大森委員、大竹委員、小川委員、大淵委員、山崎委員、小林委員、山田委員、若月委員</p> <p><市関係者及び事務局職員></p> <p>小池市民協働推進部長、嶋谷中央公民館長、今井中央公民館長補佐、菅係長、池澤主査（支所地域担当職員はオンライン参加）</p>
5 欠席者	なし
6 会議内容	<p>1 あいさつ</p> <p>2 議題</p> <p>（1）令和7年度社会教育事業に関する取組報告、質疑応答について</p> <p>（2）令和8年度長岡市社会教育の基本方針（案）について</p> <p>（3）令和6～7年度社会教育委員活動について（報告）</p> <p>① 今期の社会教育委員の活動について</p> <p>② 第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会について</p> <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育委員の改選について ・ 今期の振り返りおよび次期への提言について
7 議題の審議結果	<p>（1）資料1・3について事務局から説明し、現状や課題等の共有が図られた。</p> <p>（2）資料2・3について事務局から説明し、承認された。</p> <p>（3）資料4について研修委員長等から説明があり、意見交換等が図られた。</p>
8 議題の審議内容	
委員	<p>●議題（1）について</p> <p>PTAについてですが、どうしても一部の保護者に負担が集中しているというお話を関係者からよく聞きます。「この役割も、あの役割も、同じ人が担っている」という実態があり、組織として十分に機能していないケースがあるように思います。</p>
委員	<p>私も同じ印象です。コロナ禍以降、活動の経験がないままPTAに入ったという保護者が多くなり、何をどう進めればよいのかがわからず、結果として少人数に</p>

委員	<p>負担が偏っていると感じます。</p> <p>子ども会でも同様の傾向があります。5年間ほとんど活動が途絶えてしまった地域では、「これ以上続けるのは難しい」と閉会を検討するケースも出てきています。やってみたい気持ちはあるのですが、保護者の事情や地域の人の意識の変化から、なかなか活動が再開できない状況です。</p>
委員	<p>●議題（2）について</p> <p>社会教育基本方針に「地域」という言葉がしばしば出てくるのですが、これは小学校区のような狭い地域を指すのか、市全体を指すのか、文脈によって異なるように見受けられます。</p> <p>第1回委員会の際に「大きな社会教育」と「小さな社会教育」という考え方をお話ししました。「長岡市総合計画（案）」の中に「地域活動」と「市民活動」という言葉がありますが、「大きな社会教育」のまなびを活かすことを「市民活動」、「小さな社会教育」のまなびを活かすことを「地域活動」と考えればスッキリするように思います。これら「地域活動」と「市民活動」という表現について、行政の説明はあるものの、社会教育の観点からもう少し整理して示していただけるとありがたいと感じています。</p>
委員	<p>伝統芸能や文化活動を行っている団体が、市内に多く存在するにも関わらず、地域ごとに完全に分断されている状況があります。同じ分野でどの団体がどこで活動しているのかという基本的な情報さえ共有されていません。</p> <p>伝統文化の担い手が高齢化し減少している状況について、市として横断的な把握をしていただけると、政策面でも活かせるのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>●議題（3）について</p> <p>今年度は、委員の皆さんが本当に“行動する委員会”として活躍されていたと感じています。県大会での発表、市広報との連携、QRコードリーフレットの作成やInstagramの活用など、例年以上に能動的な取り組みが多くありました。</p>
委員	<p>第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会の参加報告をします。大会スローガンは「社会教育で創る 育む つなげる 共生の未来」です。記念講演ではNPO法人スローレーベルの栗栖様からお話を頂きました。「スロー」は個性をより出すことができ、ことづくり、ひとづくりに有効で関係人口が多いことが特徴です。障がいの有無を超えて協働の機会をつくるのが大切であると学ぶことができました。</p>
委員	<p>個人的な話になりますが、学生時代の同期と偶然再会するなど、人とのつながりの不思議さを感じる場面もありました。こうした偶発的な出会いも社会教育ならではの魅力だと改めて思いました。分科会の事例発表は、どちらも社会教育委員</p>

委員	<p>が自ら率先して、楽しみながら活動している様子が印象的でした。</p> <p>見附市で採用されている「コアチーム制」は非常に参考になりました。熟議で出た意見をどう実行につなげるか、そのプロセスが明確で、長岡でも活かせるのではと感じました。</p>
9 その他	
<p>●社会教育委員の改選について</p> <p>社会教育委員会の地域推薦区分を「旧長岡地域・北部地域・南部地域・栃尾地域」のように広域で再編する案が事務局から説明があった。</p> <p>委員からは「地域の実情を踏まえた選出は良い」「負担が一箇所に集中しない仕組みが必要」といった意見があった。</p> <p>●今期の振り返りおよび次期への提言について (主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校現場にいと、どうしても視野が狭くなりがちですが、ここで皆さまのお話を伺うことで、地域の考え方や他分野の視点を知ることができ、本当に学びが多かったです。 ・ここで得た情報を地域に持ち帰り、住民の方々と共有するという役割を担っていきたいと思います。 ・今期をもって退任することになりますが、地域の立場から引き続き社会教育に関わっていきたいと思っております。 ・在任期間の中で、多くの団体からお話を聞くことができました。いずれも、立ち上げる時の熱意はもの凄いのですが、何年か経つと必ず後継者問題の話になっていました。今年はSNSなども勉強させていただきましたが、学校や若者とつながることが、これからの社会教育にとって重要になるのではないのでしょうか。 ・今年度は特に、委員の皆さまが自分から動く年だったと感じています。様々な取り組みも進み、次につながる可能性が広がりました。 	
10 会議資料	別添のとおり